

尚寿会

発行者: 實積英彦, 埼玉県狭山市水野594番地, 企画編集: 広報紙編集室, 編集長: 関口 歩
ホームページアドレス: www.syojukai.or.jp メールアドレス: syojukai@mirror.ocn.ne.jp

年頭あいさつ 理事長 實積英彦



写真: 法人統括本部・グループ理事の情熱ある仲間たち (2021年よりリモデル)

あけましておめでとうございます。

2021年の新年を迎え、謹んで新年へのお喜びを申し上げます。

2020年、困惑そして奮闘の1年でした。

いつの時代にも良き事、悪しきことが混在します。矛盾です。

悪しきことに対しては、振り返り反省を行い、そして未来への躍進の糧としていきます。

良き事に対しても、その過程を再認識し、更に良いものへと発展させるための努力を継続していきます。これが歴史です。

2019年、私は年始のご挨拶に前年の良き事として、上野動物園でのパンダ誕生・十数年ぶりの日本人横綱誕生などを挙げました。2020年の私は、ラグビー日本チームの心の強さ・天皇陛下即位の礼を挙げました。そして2021年の年始を迎え、昨年の良き出来事を模索するも、偏に難渋致します。

医療従事者としては、多くの迷い・葛藤を経験した厳しい1年間でありました。同時に、多くの職員に全力で支えてもらった事実に対して、心からの感謝の1年間でもありました。

短期間で大きく時代が変化しました。何がみえたのか、それは多くの解決すべき問題を先送りにしていた近未来が、予定よりも早く訪れたのであらうと思いました。前もって用意をしていたよりも時代が早く動いた印象でした。世界的な危機環境下で、はたして自身は正しい判断をできたのであらうかと問います。

管理責任者としても、反省の多い1年でありました。

しかし、現状は直ぐに打破できません。現実から決して目を背けず、利他の精神を常に持ち続けて行く事が、今できる最大です。過去の成功体験に執着していくことが不可能な時代になり、私達ができる



事を提供するだけでなく、求められている事以上の現実を真摯に提供できる様に、更なる変化と進化が求められています。

過去の歴史は尊重されるべきものでしょう。現在との因果があるでしょう。但し、いずれは過去の常識は未来の非常識になり得ます。未来との因果が必ずしもあるとはいえません。いかに道徳を忘れずに、発展性を持った非常識も学べるかが未来への存続のカギとなっていくでしょう。

感染防御と社会経済維持における行動には、多くの矛盾が存在します。しかし今、その矛盾にすら両立が必要です。そして矛盾を超えた先に、本質が見いだせるのであろうと思います。当然、私たちにおいても提供される医療の質向上、医療従事者の負担・経営との矛盾を持っています。但し、良質な経営は職員・職員家族の生活を良好なものにすることが可能となり、それは最終的に信頼と愛にかたちを変え、患者様に届ける事が可能です。矛盾はあってもひとつの方向性である事が重要です。

本年の私たちは慢性期医療機関としての強みを更に出していく事と共に、医療従事者である責務・誇りを再認識の上で、現在応えられていない多くの地域ニーズに応えられる様に、変化していく事が必要でしょう。さらにはニーズが顕在化する以前に手を打つことができる組織文化の習得も必要です。

2021年、本年は昨年の学びを最大限に生かし、新しい組織図を描き、患者様・地域の皆様・法人職員そして職員を支えて下さるご家族様へ、何かひとつでも恩返しができる1年でありたいと思います。

最後に、現在でも奮闘中の重症感染症により命を落とされた多くの方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。

2021年 謹賀新年

医療法人尚寿会・社会福祉法人尚栄会 理事長 寶 積 英 彦

いよいよ工事がはじまります！ ～保育室「ひよこ園」新築工事～

尚寿会グループにはお子さんを保育室に預けて働いている職員がたくさんいます。年々保育室で預かるお子さんの人数が増え、現在の保育室では手狭になってしまい、夏休みや冬休みの長期休暇時には、病院の会議室を臨時保育室として使用する事態。少子化が言われて久しいですが、当グループ内では、常に産休育休中の職員が10名を超える状況で、働くママさんにも大いに支えられています。そうした職員が、出産後も安心して職場復帰ができる環境を整えるために、院内保育室「ひよこ園」



を移転新築することになりました。

1月から新築工事が始まる予定で、去る12月10日には地鎮祭を行い、設計・建築関係者の方々と共に、工事の安全祈願をしました。

完成は6月頃、夏には新しい「ひよこ園」へ引っ越しの予定です。今度の保育室では園庭と大生病院裏の「いこいの院庭（にわ）」で、元気いっぱい遊ぶ子供たちが見られると思います。

新しい保育室「ひよこ園」が、徐々に形になっていくのも今年の楽しみです。（熊☆）



季節を感じ、活気ある毎日へ ～老健 愛のユニットレク～

愛の入所部門では毎月、各フロアでレクを企画して利用者様に楽しんで頂いております。内容は様々で四季折々の行事であったり、物作りや調理レクであったり、介護職員を中心に企画を練っています。レクの規模もフロア全体のものから、ユニットのみのものまで多様です。先日のクリスマス会や忘年会では、栄養科と一緒に豪華な昼食やデザートを作り、職員の出し物など大きな盛り上がりとなりました。

施設ならではのお酒の提供や利用者様の「したい！食べたい！」を叶えるレクは、老健生活の醍醐味のひとつとなっています。毎日が日曜日ではつまらない！利用者様の喜ぶ顔が見たい！少しでも日々の生活が活気溢れるものになるよう今後も努力していきたいと思っております。

日頃のレクの様子はブログでも発信しておりますので、是非ご覧ください。



（なみ）

介護百人一首で介護への気持ちを伝えたい ～埼老健介護百人一首への応募～

介護百人一首は、元々NHKの福祉番組内で介護短歌として紹介されてきました。介護する方、介護される方が日々の生活の中で感じている辛さ、悲しさ、怒り、笑い、そして優しさを詠んだこの「介護短歌」は、番組内でも大きな反響があったそうです。

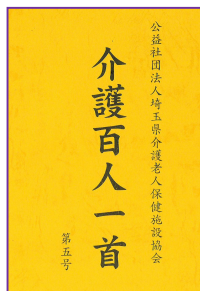
埼玉老健協会でも毎年短歌を募集しており、応募の中から優秀作品の10作品は埼玉介護老人保健施設大会内で表彰され、応募した作品は冊子として綴られます。

今回、老健 愛の通所リハビリテーションセンターにて作品を募集したところ16名の方がご自分の経験や介護への強い想いを短歌にしてくれました。初めて利用者様に短歌を募集しましたが、ご趣味として日頃から習慣のあった方はもちろんですが、これを機に興味を示されて取り組んで頂けた方など、予想以上に短歌が集まり、職員も驚きました。

介護してきた親への気持ち、ご自分が介護を受ける立場になった悲しさや辛さ、それに負けずに元気に過ごしたいという想いなど、様々な多くの気持ちのこもった名歌ばかりです。

愛の応募作品から優秀歌が選ばれますように…。

(なみ)



新任医師のご紹介 ～あさひ病院～

「9月からあさひ病院に勤務しております、寺野章代と申します。病棟担当が主ですが、少しでもお力になれるよう励みます。こう見えて、野球観戦が大好きで、テニス、音楽鑑賞などが趣味です。どうぞよろしくお願いいたします。」

優しい笑顔に安心を感じる先生です。どうぞよろしくお願いいたします。(なる)

あさひ病院 4階西病棟担当(特殊疾患病棟)



季節感を大切に活動しています！ ～あさひ病院リハビリテーション科～



縁起物の達磨やサンタさん

今年度は新型コロナウイルスの影響による活動の制約などが多々ありました。その中でも、患者様が季節感を感じ、楽しみながら入院生活を送ることができるように、感染対策を講じた上で様々な活動に取り組んできました。

今回は、あさひ病院リハビリテーション科で行っている活動の中から、季節感のある作品をご紹介します。



干支の判を押した年賀状

(むー)

お仕事虫眼鏡 第7弾 ～施設メンテナンス課～

現在施設メンテナンス課には5名の職員が在籍し、大生病院・あさひ病院・老健 愛で使っている備品や施設の修理や修繕、空調設備の清掃や管理、納涼祭・防災訓練時などのテントの設営、庭木の剪定や草取りなど、多岐に亘る業務を行っています。

今回は、なかなか聞けない季節の設えについてお話を伺いました。こいのぼりは地域の方や職員から寄付して頂いたものを、施設間にワイヤーを渡し、ひとつひとつ吊るしているそうです。毎年設置前にこいのぼりの状態の確認やワイヤーの設置をし、大安吉日を選んで設営、細やかな配慮がされていますね。冬のイル

ミネーションでは、毎年少しずつ装飾に変化を加え、大生病院やあさひ病院前の装飾だけでなく、あさひ病院や愛では、中庭にも設営しているそうです。

「あ！こいのぼり～」「キラキラ綺麗だね」と、ひよこ園の子供たちがとても嬉しそうに見ている姿を目にします。こうした装飾は私たちに季節の移ろいを感じさせてくれ、心豊かになりますね。

日々の地道な施設メンテナンス課の働きがあって、私達は快適に、安全に仕事ができている事を改めて感じ、これも協働の形なのだと思います。(エム)





蜆 気 楼 ～めざせ！地域密着の医療者～

4月にあさひ病院に入職しました石川です。

縁あってこの地に来たからには、少しでも地域の事を知ろうと、駅から徒歩で通勤しています。最初は、どこにコンビニがあるか、どこに郵便局があるか、どこにファーストフードがあるかもわからない状態でしたが、「こんなところに公園がある」「こんなところにお茶屋さんがある」と、日々新たな発見があります。今では、患者様やご家族と地域の話を多少できるようになりました。

当直の日には約 20 kmの道のりを、走ったり、自転車通勤することもあります。逆に当直明けに走るか、自転車で帰ることもあります。東日本大震災の時に買った自転車のチェーンが、自宅まであと 5 kmのところで切れてしまい、押して帰ったこともありましたが…。

これからも地域に密着した医療者を目指して、散策(徘徊?)を続けて行こうと思います。

石川 純 あさひ病院4階東病棟(認知症治療病棟)火曜日午後・木曜日午後外来担当



お楽しみ抽選会 ～親睦会イベント～

今年度の親睦会は、新型コロナウイルスの影響により、納涼祭などの親睦会企画イベントが残念ながら全て中止となってしまいました。

そんな中でも、親睦会として何かできる事があるのではないかと考え、『おたのしみ抽選会』を開催させていただきました。3回開催する抽選会のうち1回のみ応募可能とし、

当選商品はポスターをヒントに想像してもらう、とすることで「何が当たるんだろう?」「今回応募してみる?」などと、職員同士のコミュニケーションのきっかけになって頂ければ幸いです。

次の抽選会がラストチャンスです。参加が未だの方は、次回抽選会の応募をお待ちしています。

(1月下旬～2月上旬を予定) 残念ながら第1回・第2回で外れた方も、まだチャンスはあります。

どうぞお楽しみに!

第42期親睦会会長 木下弘章



イルミネーション今年も素敵です! ～尚寿会グループ各施設～



闇夜を彩るイルミネーション。コロナ禍のせいか、世の中は少し控えめようですが、今年も大生病院とあさひ病院、老健 愛で点灯しています。日暮れが早いこの時期、受診帰りの外来患者様親子が眺めていらしたり、仕事帰りの職員が写真を撮っていたり、多くの人たちが楽しんでいる姿をよく見かけます。

毎年工夫を凝らして設営に当たっている施設メンテナンス課の福島さんによると、毎年飾りを少しずつ増やしているそうです。今年は列車にプレゼントを載せたり、国旗掲揚棒をきらきらと光らせたり…。離れてみると色とりどりの光がまばゆくて、近くでは飾りの細部まで工夫が施されているのが見て取れます。

生活が一変した昨今だからこそ、ひとつずつ心を込めて飾り付けた優しい輝きは、いつにも増して胸に染み入る感じがしますね。

(ちか)



☆絆号☆きずな号 コロナ禍でひととの関わりが希薄になり、心淋しい想いをしているのは私だけではないと思いますが、今こそ『絆』が試される時。新型コロナという目に見えないものに立ち向かうには、信頼や敬愛そして絆、目に見えない大きな愛が大切なのではないかと想っています。(歩)

